

# 実践記録

## 134

### シリーズ

## 「子どもたちによる宇宙芸術祭」

燕市中央公民館 主任 田村 尚子



### ●「子どもたちによる宇宙芸術祭」の誕生

旧吉田町の宝物である“米納津隕石”(天保8年に落下)をテーマに何かできないか？

町の未来を担う子どもたちと、これを支援する町民のボランティアの皆さんと共に、町民による自主的な活動によるまちづくりを行うことを目的とし、平成12年に誕生しました。

### ●歩み

毎年、活動のテーマを決め絵画制作や「米納津隕石」をテーマに演劇「米納津隕石物語」を上演したりしました。平成17年には全国組織である「日本宇宙少年団」の新潟県の分団を発足しました。毎年、団員を募集し、子どもたちに宇宙・自然・科学などに夢や関心をもち、活動をとおして仲間づくりをしながら、健全で豊かな心を育てることを目的として活動を展開しています。平成18年に燕市・分水町・吉田町が合併し「新生燕市誕生」により、現在燕市の子どもたちと“リーダー”と呼ばれているボランティアと共に活動しています。



### ●主な活動を紹介

#### 6月…「県立自然科学館見学」

メインは、プラネタリウム観賞です。季節の星空を子どもたちに変わりやすい説明付きで投影してくれるので、星空観察にもどんどん興味がわいてきます。

楽しい実験ブースもたくさんあり、1日たっぷり探索・実験して大満足です。

#### 夏休み…「水ロケット製作と打上げ実験」

これが最高に楽しく、毎年恒例に行っている活動です。ペットボトルで基本ロケットを製作し、市の総合グラウンドで水を入れ、圧を加えて発射させます。飛距離を競ったり、定点にいかに近く飛ばせるかを競ったりします。いかに遠くへ飛ばすためには…とロケットの羽根を工夫したり、発射台に取り付ける角度を考えたり試行錯誤しながら楽しめます。親子で参加してくれる団員も多く、子ども以上に熱中しているお父さんの姿があちこちで見られます。

#### 11月…「親子おもしろ科学教室」

こちらは燕市理科教育センターの先生が、“でんじろう先生”のように簡単に楽しい実験を紹介してくれます。共催で参加させてもらい科学の不思議を親子で楽しく体験します。大人の皆さんから、「子どもの頃にこんな楽しい実験体験できたら、もっと理科や科学が好きになったのにな〜」といつも声が聞かれます。



#### 2月…「寒い冬に、あったかーいクッキング」

この寒い時期のクッキングも恒例となり、毎回出席の多い活動です。低学年の団員にはリーダーや大人が包丁の持ち方を教えたり、やってみよう！という気持ちを大切にしながら和気あいあいと調理します。ちょっと苦手だった野菜も自分で調理したり、仲間と一緒に食べると「あれっ？おいしいかも…」



### ●おわりに

合併を機に団員も旧吉田町だけではなく、燕市の広範囲地区から入団してくれるようになってきました。「子どもたちによる…」活動の主体は子どもたちです。活動中の子どもたちの熱心さや笑顔、発せられる声に、周りの大人は一喜一憂しています。活動後に毎回アンケートも記入してもらい、次へつなげる足がかりとしています。今課題なのが、ボランティアスタッフのメンバーのほとんどが多方面でもボランティア的活動している大変忙しい方ばかり。子どもたちの夢・未来と一緒に支えてくださるスタッフ！募集しております。